

江戸時代の釈迦 涅槃図を修復

広島城に関係
する絵師の作

172年前 眞福寺(富士見)に寄進

涅槃図は、高さ3尺25寸、幅2尺6寸の大きさ。寺を引き継いだ小林住職が2021年、本堂に隣接する七面堂の梁にしまわれているのを発見した。記録によると、寺は過去に2度、本堂が火災に遭っ

富士見町下葛木の日蓮宗眞福寺と檀家有志は、172年前となる江戸時代の1853(嘉永6)年に当時の檀家が寄進した「釈迦涅槃図」を修復し、今月お披露目をした。広島城(広島県)に関係する絵師が描いた作品と見られ、釈迦の死を悼む人や菩薩、多くの生き物が繊細なタッチで色鮮やかに表現されている。小林堯顕住職(40)は「寺の宝物。末永く大事にしたい」と話し、毎年2月3日の節分などに公開する意向を示した。(佐々木孝彦)

ているが、涅槃図はいずれも災禍を免れたとみられている。

涅槃図は、釈迦が肉体的な死を迎えた「入滅」の場面を描いた絵画。眞福寺の涅槃図は、第45代日宣上人が住職を務めていた当時、檀家の齊木



2年半をかけて修復した172年前の「釈迦涅槃図」と眞福寺の小林堯顕住職

浅右衛門(烏帽子新田)をはじめ、田端、葛木、池袋、先達など各地区の計12人が寄進したとされ、作中には贈り主

の名前も記されている。発見当時は、長い年月の保管により、作品の表面にしわがよるなど「劣化が激しい状態(小林住職)だった。そこで修復することを決め、都内の専門家が約2年半をかけて表装をし直した。費用の約220万円は寄進者の子孫の檀家有志が出資したという。甲府市出身で立正大学と身延山大学を卒業し、仏教美術にも詳しい小林住職は「非常に価値のある涅槃図」とし、「当寺は昨年日蓮宗に改宗して750年の節目を迎えた。涅槃図は仏教の大切な行事である涅槃会に用いたりしながら大切にしていきたい」と話していた。